

デュアルシステム・地域のものづくり人材育成推進事業 土木科実施報告書

事業名称		現場実習（インターンシップ）			
実施目標		「現場実習」を実施することによって現場の実際について、実践的・体験的に学習し、土木の知識・技術・技能を習得し自己研鑽につとめ、将来地域産業に貢献できる心豊かな人材を育成する。			
実施内容		①企業概要説明 ②現場教育 ③技術実習 ④各企業見学 ⑤安全教育 ⑥その他			
実施回数 及び実施時数		事前指導：2時間、インターンシップ 3日間、発表会 2時間			
参加 生徒	学科名	土木科			
	学 年	2年			
	延べ生徒	30名			
教育課程への位置付け		土木実習			
実施概要		企業ごとによって異なる。 (企業説明, 業務内容, 現場見学, 測量実習など)			
記録写真					
実施効果		<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;"> 実施後のアンケート結果（抜粋 生徒） ①実際に行った仕事についてよかった 97% ②現場実習を終えてみて満足している 100% ③現場実習が進路選択に役立つか 93% </td> <td style="width: 50%;"> 実施後のアンケート結果（抜粋 企業10社） ①現場実習を受け入れてよかった 10社 ②生徒の取組む姿勢や態度がよかった 10社 ③企業での現場実習は高校生に必要 10社 </td> </tr> </table>		実施後のアンケート結果（抜粋 生徒） ①実際に行った仕事についてよかった 97% ②現場実習を終えてみて満足している 100% ③現場実習が進路選択に役立つか 93%	実施後のアンケート結果（抜粋 企業10社） ①現場実習を受け入れてよかった 10社 ②生徒の取組む姿勢や態度がよかった 10社 ③企業での現場実習は高校生に必要 10社
実施後のアンケート結果（抜粋 生徒） ①実際に行った仕事についてよかった 97% ②現場実習を終えてみて満足している 100% ③現場実習が進路選択に役立つか 93%	実施後のアンケート結果（抜粋 企業10社） ①現場実習を受け入れてよかった 10社 ②生徒の取組む姿勢や態度がよかった 10社 ③企業での現場実習は高校生に必要 10社				
実施成果		<p>上記結果からも、現場実習は大変大きな効果が現れており、毎年実習後の生活面や進路意識の変化は大きいものがある。また、人前でプレゼンをすることに慣れていない生徒にとって、発表会をすることの意味はかなり大きいと思う。</p> <p>アンケート結果で、生徒の満足度が高い要因は、受け入れ企業が工夫されて魅力的な実習内容を計画・準備していただいていることが大きく影響していると思われる。</p>			
問題点 及び 課題		①学校での授業内容と企業の求めている内容に進度の差が大きい。 ②インターンシップ中の授業について（普通教科における他クラスとの進度の問題） ③実施時期（企業が求める時期と、学校が希望する時期のズレ） ④万が一、事故が起きた場合の対応 ⑤熱中症対策			

デュアルシステム・地域のものづくり人材育成推進事業

土木科実施報告書

事業名称		地質調査講習	
実施目標		生徒および教員を対象に、地質についての概念及び各調査方法を学び、企業の卓越した技術や高度熟練技能者による実践的な指導により、地質調査に関する確かな知識の修得や土木への興味関心の向上を育む。	
実施内容		講義：地質調査について 実演：ボーリング調査、表面波探査調査	
実施回数 及び実施時数		実施回数 1回 実施時数 3時間	
参加 生徒	学科名	土木科	
	学 年	1年	
	延べ生徒	30名	
外部講師	所 属	一般社団法人 東北地質調査業協会	
	職氏名	理事長 奥山 清春 様 他7名	
	報 酬	40,000円	
教育課程への位置付け		工業技術基礎	
実施概要	9:00～ 9:10 開会行事 9:10～ 9:50 講義 9:50～10:00 グラウンドへ移動 10:00～11:30 実演（ボーリング及び表面波探査） 11:30～11:40 閉会		
記録写真			
実施効果	実施後のアンケート結果より(抜粋) ①講話・講演の内容は期待通りだった 80% ②講話・講演はわかりやすかった 97% ③講話・講演の内容に満足している 90% ④続きがあればもっと聞きたい 80% ⑤今回の内容が進路選択などに役立つ 100% ⑥検定や資格等を取得してみたい 80%		
実施成果	上記アンケート結果から、地質調査の仕事内容や私たちの生活支えてくれているものだという認識ができたと思われる。 また、土木やものづくりへの興味関心を強く抱く生徒や、卒業後の進路選択の意識付けに強く影響すると感じた生徒が多く、土木に対する興味関心を抱かせるには十分に成果をあげている。		
問題点 及び 課題	雨天時に実演を実施できるか。出来ない場合の対応をどうすべきか。		

デュアルシステム・地域のものづくり人材育成推進事業 土木科実施報告書

事業名称		土木進路講話									
実施目標		土木（建設）の仕事について、公務員と民間企業（建設業）の違い、社会人に必要なことなど、ガイダンス的な内容について公務員、民間企業の立場から話してもらうことにより、入学後の間もない時期に専門教科への興味関心を植え付けると共に、これから学ぶ専門教科への取り組む姿勢や意欲・積極性の向上、また卒業後の進路選択に役立てることを目標とする。									
実施内容		外部講師によるPowerPointを使った進路講話									
実施回数 及び実施時数		実施回数：1回 実施時数：2時間									
参加生徒	学科名	土木科									
	学 年	1年									
	延べ生徒	29名（欠席1名）									
教育課程への位置付け		工業技術基礎									
実施概要	<p>9：50～9：55 開会行事 9：55～10：35 第1部（国土交通省 東北地方整備局より講話） 10：35～10：40 休憩 10：40～11：20 第2部（宮城県建設業協会青年会より講話） 11：20～11：25 質疑応答 閉会行事</p>										
記録写真											
実施効果	<p>実施後のアンケート結果より（抜粋）</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 80%;">①建設業界について、興味を持っていましたか</td> <td style="text-align: right;">はい 50%</td> </tr> <tr> <td>②講話を聞いて、建設業が理解できましたか</td> <td style="text-align: right;">はい 90%</td> </tr> <tr> <td>③講話を聞いて、建設業に興味を持ちましたか</td> <td style="text-align: right;">はい 87%</td> </tr> <tr> <td>④講話を聞いて、建設業で働きたくなりましたか</td> <td style="text-align: right;">はい 77%</td> </tr> </table>			①建設業界について、興味を持っていましたか	はい 50%	②講話を聞いて、建設業が理解できましたか	はい 90%	③講話を聞いて、建設業に興味を持ちましたか	はい 87%	④講話を聞いて、建設業で働きたくなりましたか	はい 77%
①建設業界について、興味を持っていましたか	はい 50%										
②講話を聞いて、建設業が理解できましたか	はい 90%										
③講話を聞いて、建設業に興味を持ちましたか	はい 87%										
④講話を聞いて、建設業で働きたくなりましたか	はい 77%										
実施成果	<p>アンケート結果や感想から、生徒は土木の仕事を理解するとともに、土木は私たちの生活にとってとても大切なものだと実感した。 また、将来は土木系の職業に就きたいと考える生徒が約8割いた。 全体的にみて、土木に対する興味関心を抱かせるには十分な成果をあげている。</p>										
問題点 及び 課題	<p>講師の方の話す内容や雰囲気によって、生徒の反応も異なるので、このプログラム自体はいいが、講師選びについては検討していきたい。</p>										

デュアルシステム・地域のものづくり人材育成推進事業

土木科実施報告書

事業名称		積算研修会											
実施目標		建設業で必要不可欠な積算について、パソコンソフトを利用し体験的に学習することで積算の理解と基礎的知識を身につけ、建設業への担い手育成の一環と、建設業に進路決定した生徒の就職後仕事上での一助になることを目指す。											
実施内容		積算についての講義および積算ソフト「頂」を利用した積算実習											
実施回数 及び実施時数		実施回数 1 回、実施時数 5 時間											
参加 生徒	学科名	土木科											
	学 年	3 年											
	延べ生徒	25 人											
教育課程への位置付け		土木実習											
実施概要		<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">準備・開会行事</td> <td style="width: 50%;">9 : 30 ~ 9 : 35</td> </tr> <tr> <td>講義・実習</td> <td>9 : 35 ~ 12 : 40</td> </tr> <tr> <td>昼食休憩</td> <td>12 : 40 ~ 13 : 20</td> </tr> <tr> <td>講義・実習</td> <td>13 : 20 ~ 15 : 05</td> </tr> <tr> <td>閉会行事</td> <td>15 : 05 ~ 15 : 10</td> </tr> </table>		準備・開会行事	9 : 30 ~ 9 : 35	講義・実習	9 : 35 ~ 12 : 40	昼食休憩	12 : 40 ~ 13 : 20	講義・実習	13 : 20 ~ 15 : 05	閉会行事	15 : 05 ~ 15 : 10
準備・開会行事	9 : 30 ~ 9 : 35												
講義・実習	9 : 35 ~ 12 : 40												
昼食休憩	12 : 40 ~ 13 : 20												
講義・実習	13 : 20 ~ 15 : 05												
閉会行事	15 : 05 ~ 15 : 10												
記録写真													
実施効果		建設業では必要不可欠な積算は、複雑で現場経験がないと高校生が理解することは大変である。しかし、概要については実際の生活の中で起きている事などを例に挙げ、分かりやすく説明いただいた。また、実際の積算については教科書に即した内容でパソコンソフトを使用し簡単に体験できた。この二つの事から、積算の入口としては十分な効果を得られたと感じる。											
実施成果		上記に記載した通り効果は感じられたが、実際の積算は、企業に於いても実務経験を十分に積まないと携わることができない。そのため、今回の研修で成果を上げることは無理である。しかし、卒業後、積算業務に携わる機会が訪れた場合には多少なりでも生かされるのではないだろうか。											
問題点 及び 課題		12月中旬に開催したが、この時期は就職内定をいただいている生徒がほとんどである。そして学科に関連した企業に就職する生徒は、意欲を持って取り組んでいるが、それ以外の就職をする生徒の取り組む姿勢とに大きなギャップがある。											

デュアルシステム・地域のものづくり人材育成推進事業 土木科実施報告書

事業名称	測量士補講習	
実施目標	測量士補合格	
実施内容	放課後約2時間の測量士補講習	
実施回数 及び実施時数	実施回数：22回 実施時数：2時間×22回＝44時間	
参加 生 徒	学科名	土木科
	学 年	2・3年の希望者
	延べ生徒	約30名
教育課程への位置付け	なし	
実施概要	4月2日から5月17日までの平日放課後(部活終了後に開始するので、おおよそ19時より21時)、本校教員が講習会を実施し、一人でも多くの測量士補合格者を出す。	
記録写真	写真はありません。	
実施効果	平日の夜に毎日2時間約2ヶ月にわたって部活動後に学習をするということは、しっかりした目標と自覚と努力する力がないと続かないものだが、この講習会には30名近い生徒が参加してくれた。中には途中から来なくなった生徒もいたが、全体的に見れば、測量士補取得のための努力は相当したと思う。 この努力は、測量士補だけでなく、何事にもチャレンジして努力すれば何とかなるかもしれないという思いを植え付けられたと思う。	
実施成果	7月10日に合格発表があり、3年生6名合格、2年生5名合格という結果になった。合格できたのは、生徒各々の努力とこの講習会の成果だと思う。2年生はまた来年合格目指し頑張ってもらいたい。また、この3年生の合格者の中には、建築科や電気科の生徒も含まれており、科の枠を超えた取り組みが出来たことをうれしく思う。	
問題点 及び 課題	先生方の負担がかなり大きい。	